

関東ふれあいの道（栃木）⑪桜咲くパノラマのみち

2024年4月27日（土）

2024年1月13日（土）晴れ、昨日は小山のビジネスホテルに宿泊して、朝早めに宿を出る。タイトルは桜咲くであるが、コース計画上真冬に歩く事となった。歩程はそれ程厳しくなく、287mの大平神社から里山を下り、栃木の街に出る。

巾着山（80m）と言う小高い山に桜が咲き誇ると云う。栃木の桜の名所であるが、今回は無理だ。



「⑪桜咲くパノラマのみち」案内板 駅構内にある



コース概略図（大平下駅→大中正寺→大平山神社→錦着山→両毛線栃木駅 13 km）



昨日と違って、朝日差す大平下駅 7:52 着



昨日歩いて来た峠が見える（中央左幌石山、更に左の窪みは、桜峠）



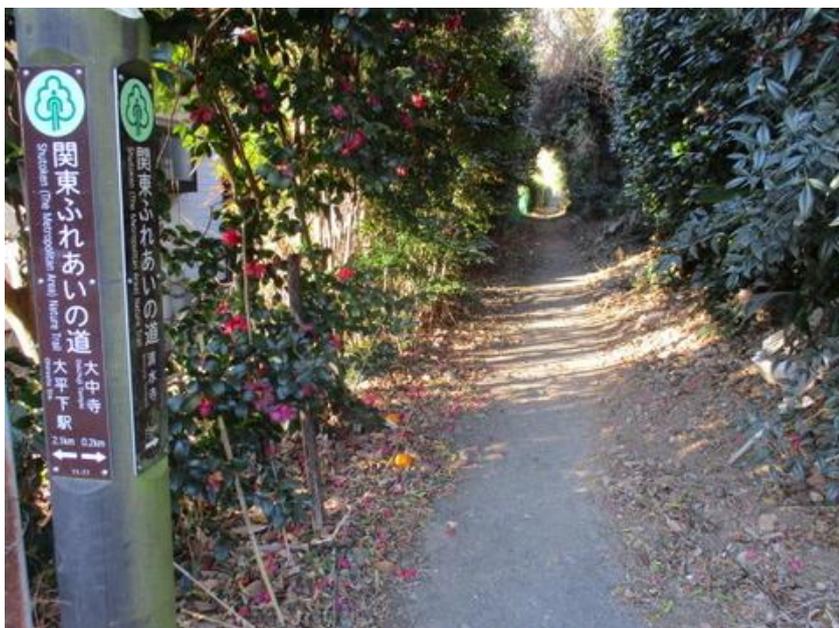
両毛線を踏切で渡り北へ、山の方に向かう（大中寺方向）



里から山へ入る、今日は少し暖かい



山ノ端の杉林の道を行き



里道の椿のトンネルを潜ると、程なく大中正に着く



「大中寺」曹洞宗 久寿元年（1154）真言宗の寺として開基。延徳元年（1489）曹洞宗として再興した。越後上杉氏、小山氏の庇護を受ける。戦国時代の永禄 11 年（1568）上杉氏と北条氏はここで和議を結んだ



上田秋成の「雨月物語」に代表される、七不思議伝説がここにある
枕返しの間、不断のかまど、根なしのフジ、開かずの雪隠、馬首の井戸



道標に従って大平山神社に向かう



舗装道路が神社まで向かうのであるが、道端に蠟梅（ろうばい）が咲いていた



自動車道路と別れて山道に入る



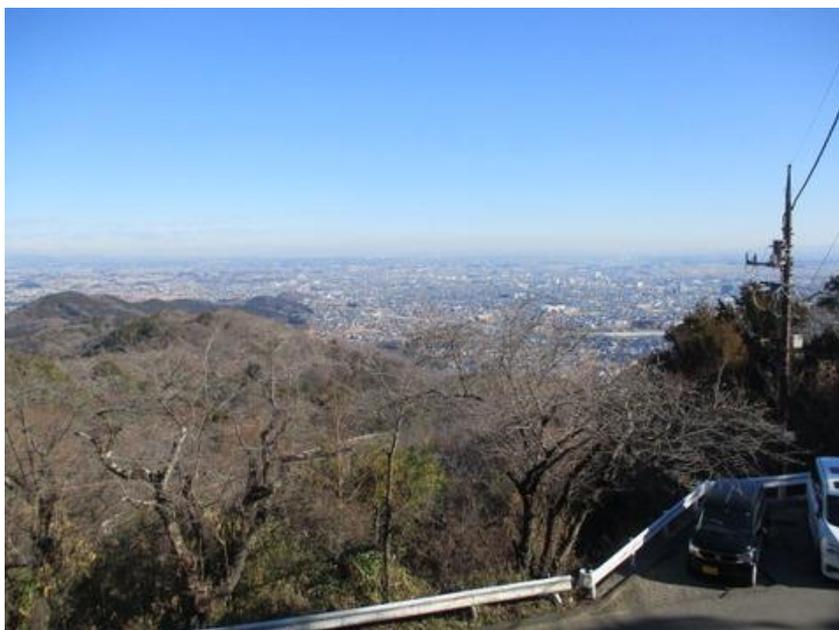
この道は参詣の道でもあるのだろう、よく整備されている



「謙信平」永禄 11 年（1568）大中寺で和議を結んだのち、謙信はここで兵馬の訓練をしたと伝える。ここから南関東を見渡して、あまりの広さに目を見張ったと言う。



謙信が仰天した南関東平野。ここからの俯瞰は「陸の松島」と云われる小高い山が点在する



東側の栃木の町並み



茶店も並んでいて、桜の季節になると大賑わいと云う



「太平山神社」天長4年（827）創建、武士を始め多くの人達から崇敬を集めた
元治元年（1864）水戸天狗党騒乱の場所としても有名。ここで人を集め、高崎に向かった



大平山を一気に下り、里に向かう



毎度の写真であるけれど、杉林を駆け降りて



明るい里山の小径を抜けると



栃木の町外れに出た



県立栃木農業高校の前を通る



第13回全国高等学校「そば打ち選手権大会」があった「敢闘賞」だって。栃木は蕎麦の町



途中散歩するおばさんと、コミュニケーションウォークを楽しむ



おばさんと別れて、道標に従って川沿いに行く



日光方面から流れて来る「水野川」だという、正面男体山は雲に隠れている



「錦着山」(81m) 周りが田圃だから、古墳ではないか。この辺りの桜の名所だと云う



ここには大きな慰霊塔があって、“栃木市海友会”（旧海軍）のモニュメントも多く置かれている



小さな山を下り、町中を道標通りに歩いて一時間



両毛線の JR 栃木駅に着いた。13：50 着 14：13 の小山行があるから、ビールでも買い込んで乾杯としよう

[参考タイム] 下大平駅 (7 : 52) → 大中寺 (8 : 53-8 : 55) → 謙信平 (9 : 38) → 大平山神社
(9 : 58-10 : 10) → 錦着山 (11 : 35-12 : 30 昼) → JR 栃木駅 (13 : 50-14 : 13)

この項完

関東ふれあいの道 (栃木) 麦笛のみちに続く